あっ!!僕の顔がテレビに映る

和納小学校校内テレビ放送開始

初放送での子どもたちの喜び

四月二十五日の第三校時、四年の教室の子ども全部は、きのうの健康診断の録画を見ようと、固唾をのんでテレビの青白く光る画面を見つめていた。

ザザーッという光の縞が二、三秒間画面を流れたかとおもうと、クッキリと画像があらわれてきた。

カメラは金子校医先生のガッシリした後姿をとらえ、次に黒い聴診器をあてられた男の子の胸が映り、常はいたずらっ子ナンバーワンのK君の神妙な顔が画面一杯にクローズアップされてきた。

さらにカメラの眼はゆるやかにターンし、裸ん坊の顔、顔、顔。カメラに向って手を振る子、カメラを意識してはにかむ子など、さまざまな姿態が、次々と映ってきた。

教室の中の子どもたちは、友だちの顔、自分の顔がでてくるたびに、

「ワーッ。○○君だっや。」

「ヒャーッ。僕の顔がでた。」

などと、驚きと喜びの歓声をあげ、教室全体が熱っぽい興奮につつまれてしまった。

遠くの放送局から送られてくる画像になれている子どもたちにとって、仲よしの友達が、ブラウン管に映しだされてくるということを、殆んど信じることができなかったようだ。

そして、今までは〝遥かな存在だったテレビ〟というものが、この日から突然子どもたちにとって、極めて身近かなものになったことに対して嬉しいとまどいをいちように感じていた。

また、これからはテレビタレントとして、自分たちみんなが出演できるようになったことに、ワクワクするような喜びを感じていたようだった。

主体的、創造的な学力づくりに活かして…

現代は「情報化時代」といわれている。急速に発展し変化する社会をよりよく生きぬくためには、一面では「情報公害」とさえいわれるほど玉石混交な情報が氾濫する中で、それらを正しく「つかみ」「まとめ」「活かす。」ということがとても重要な生活技術のひとつになってきています。

学校教育の中でも、質のよい情報を学習目的にあわせて、子どもたちに提供、選択させ、思考をいっそう深めていこうとする新しい方法〜つまり電気機器利用による視聴覚的方法〜が教育方法現代化の中心的課題となってきています。

事実、映像は文字に比べると、同時に多量の情報を、極めて効率的に伝達することができます。そしてこの映像の効果の特質を活かし学習場面にもちこむのに、ビデオ・テープレコーダー（VTR）は最も有効な働らきをもっています。

人づくりの最も基礎的な仕事として、「体力、気力づくり」の四年間の実践に対して県下全小学校中特に選ばれて今年三月三日、県教委から「教育実践優秀校」として賞状を授与された私たちの学校では、これまでの実践をふまえて、今年度は努力目標「主体的で創造的な学習態度を育てる。」という指導に全職員一丸となってとり組もうとしているおりから、総額百三十九万九千円にも及ぶVTR設備を村当局の暖いご配慮によって、一挙に整えていただいたことは、大きな喜びであります。

おもな放送施設と運営の実際

西蒲原郡内の小学校の一番手として誕生した和納小学校テレビ局（WSHT）の放映↑↓受像方式は、VTRを中心とし各教室のテレビを結んだ「親・親方式」といわれるもので、主な機器、設備は、四・五坪のスタジオ、二・五坪の調整室、録画機一台、カメラ一台、モニターテレビ一台、カラー受像機一台、その他増幅器、アンテナ、音声回路をふくむ配線からなっています。

去る四月十五日、村長さん、教育長さんのご臨席をいただき開局式を行なって以来、毎日の学習や全校放送に、WSHTはフルに活躍しています。

三人の先生と十人の児童放送委員で運営されている。一週間の放映プロの主なものは、NHK「理科教室」をあらかじめ録画したものを学校の時程にあわせて、毎日一年から六年までで、それぞれ二十分の再生放送があり、学校製作番組としては、月曜「今週の学校の動き」火曜「低学年の時間」木曜「私たちの児童会」金曜「高学年の時間」など、朝、昼休みのそれぞれ十五分の放映があります。

このWSHTの誕生は、学校における子どもたちの学習や生活をいっそう豊かなものにし、自主的な活動をさらに盛りあげるであろうと、大きく期待されます。

（和納小、佐野）

今月の納税案内

六月の納税は次のとおりです。

◎村県民税　第一期

◎保険税　第一期

◎軽自動車税月割分

県村民税は一月一日現在、保険税は四月一日現在、岩室村に住所が有る人に納めてもらうことになります。

村県民税の各種控除は本紙五月号に掲載のとおりです。

軽自動車税月割分は、四月二日以降に購入した軽自動車に、購入の翌月から月割によって納めてもらうことになります。したがって四月中に購入した人は翌月の五月から三月まで一年分の11/12ヶ月分、五月中に購入した人は10/12ヶ月分が納める税額になります。

税のことで疑問の点やくわしいことは税務課へ相談下さい。

「村誌発刊」まだか!!

照会の手紙が殺到

合併十周年を記念して村誌編さんを進めている。編さん委員会は、スタッフの活躍で来年八月末までに、発刊の見とおしがつき、一段と調査に力が注がれる。現在、県内外から発刊の照会が数十通、委員会宛届いている。

新聞紙上に、蒲原地方では実施されなかったと定説をくつがえすような検地帳が発見された。これによると岩室温泉の歴史も百年以上も古いことが考えられ、岩室温泉の名と共に村誌発刊が県内外に広く知られてきた。

郷土のおいたち、村の祖先の村造りにはげんできた。歴史の足跡をふり返えろうという村民の熱意と横山村長の教育文化振興政策により村誌編さん事業が行なわれることになった。

編集は村民に愛読されるようできるだけやさしく書かれ、通史編八〇〇ページ、さらに村の歴史をくわしく研究しようとする村民に資料編二〇〇ページに分かれユニークな村誌が期待されている。

昭和四十五年十一月新潟大学教育学部、小林弐教授を監修者にお願いし、調査員も各高校の歴史担任教諭や、郷土史学習の一環として岩中文芸クラブ員が調査員として「民話、方言」の収集に活躍している。当初計画では、今年三月完成をメドとして作業が進められてきました。調査活動が進むにつれて重要な資料が発見されたり、村民からの資料提供があり、調査員にうれしい悲鳴を上げさせている。

もくじ、内容も大きく再検討され、昭和四十八年八月迄に発刊される事に成りました。

おおよそのもくじ内容は次のとおりです。

（通史編）

予章　いわむろの自然と風土

一章　郷土のあけぼの

二章　開けゆく郷土

三章　武士の世の発展

四章　きびしい封建制度のもとで

五章　近代の夜明けと岩室村

六章　文化の発展と村民生活の向上

七章　激動の昭和期と岩室村

八章　ならわしと文化

九章　新しい発展を求めて

附録、年表

各年代の巻末には、明治、大正、昭和の年代を生きぬいてきた村民の体験座談会が掲載されます。